



海生研ニュース

2009年10月

No.104

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町347 藤和江戸川橋ビル7階
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17

☎ (03) 5225-1161
☎ (0470) 68-5111
☎ (0257) 24-8300

<http://www.kaiseiken.or.jp/>



満潮時 (10:00頃)



干潮時 (16:30頃)

大分県豊後高田市の真玉干潟の様子(上：満潮時，下：干潮時)

(撮影：三浦 正治)

目

次

常務理事就任のご挨拶	2
研究紹介	
全国沿岸域に分布する藻場の長期的な変遷-1/2	3
エッセイ潮だまり	
もっと光を	5
江戸川橋物語	6
トピックス	
実証試験場の復興状況報告(4)	7

新潟県水産海洋研究所一般公開に行ってきました!	8
夏休み期間中の実証試験場見学	8
刈羽中学校生の実証試験場職場体験学習	9
人事異動	9
研究成果発表	9
行事抄録	10
表紙写真について	10



常務理事 就任のご挨拶

石渡 隆男

本年7月1日付けをもって常務理事に就任した石渡と申します。

私は、昭和48年に経済産業省（当時通商産業省）に入省、主として電力行政に係る業務を担当してまいりましたが、今般、官民人材交流センターを通じて海生研にお世話になることになり、四国経済産業局資源エネルギー環境部長を最後に経済産業省を退職いたしました。

経済産業省在職中における海生研との接点を思い起こしますと、昭和50年当時は当所の設立に関係ある公益事業部火力課に在席しており、私自身は技術係として火力設備の技術基準関係や地熱資源開発等の業務を担当しておりました。その後、電力需要の想定、電源立地推進、電気料金関係、原子力安全規制等の業務を担当してきました。特に平成12年から15年にかけては、原子力安全・保安院の柏崎刈羽原子力保安検査官事務所長として柏崎に駐在しており、当所の実証試験場を見学させていただいたり、お客様をご案内したこともありました。

また、平成16年から17年は、原子力安全・保安院の原子力安全技術基盤課に所属、原子炉等規制法に基づく被ばく管理や放射線管理についても職務の一部として担当しており、文部科学省の主催する海洋環境放射能総合評価事業連絡

会に経済産業省代表として出席させていただき、海生研が行った調査結果の報告を受けておりました。

さて、私事で恐縮ですが、役人生活の最後の3年間は四国高松に赴任させていただき、その間、四国八十八ヶ所巡りのお遍路を結願しました。このお遍路を始めた頃、同僚から某NPO法人が進めている「道標設置事業」を紹介されました。歩き遍路をする人々の道しるべとして石の道標を要所に設置するものですが、その浄財を広く募集しており、道標には寄付者の名前も刻まれるとのことでした。相談の結果、当時四国経済産業局に単身赴任していた5人の連名で寄付しようということになり、後日、完成した道標が高松市内の某所に設置されました。私を含め5人の名前が、これから数百年の間四国の地に残るということが、私の小さな自慢です。

最後となりましたが、海生研をとりまく環境が大きく変わろうとしている中での就任となりました。もとより微力ではありますが、海生研の仕事を通じて社会のお役に立てるよう努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

全国沿岸域に分布する藻場の長期的な変遷—1/2

はじめに

今回は、水産庁の委託により海生研が実施した「藻場資源の長期変遷調査」の内容と成果について紹介します。

近年、急速な藻場の衰退が社会的な問題となり、速やかな対策が求められつつあります。藻場は漁業生産や環境保全上、多様な機能を持つことが知られています。

藻場の定義		
海草・藻類のある1つの種または1つのグループが、高い密度で繁茂している場所。 <small>(環境省「環境影響評価支援ネットワーク、環境アセスメント用語集」より)</small>		
藻場の機能		
産卵場 幼稚仔育成場 餌料の供給 流れ藻の供給 水質浄化 など	アラメ場+ガラモ場	コンブ場
アマモ場		ガラモ場

水産庁は平成18年度より「藻場資源調査等推進委託事業」を立ち上げ、藻場資源の定量的な評価・管理手法の検討を始めました。事業は「藻場資源の長期変遷調査」、「藻場資源消滅防止対策」、「藻場資源評価及び管理手法の確立」の3つの調査で構成されています。

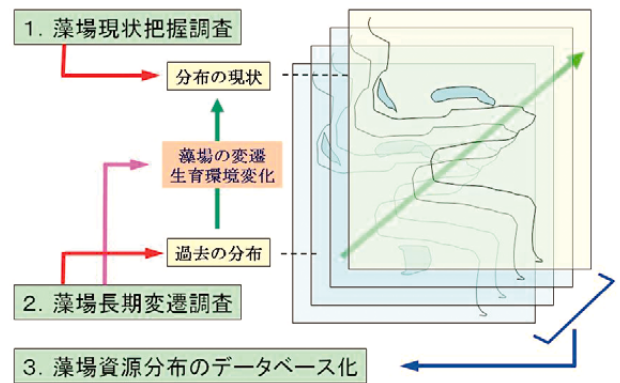
- | |
|--|
| <p>1) 藻場資源の長期変遷調査 (財)海洋生物環境研究所
沿海都道府県の藻場データを収集・整理し、データ分析することにより、それら藻場の基礎的な特性の把握及び藻場の変遷を明らかにし、変遷に至った生育環境の変化を把握し、藻場の適正な造成技術に向けての基礎資料とする。</p> <p>2) 藻場資源消滅防止対策
現在藻場面積が消滅傾向にあり、かつ消滅原因が不明の藻場について必要な調査を行い、健全な藻場との比較を持続的に行うことにより「不明」と称される藻場の資源量減少メカニズムを解明し、資源減少防御技術を確立する。</p> <p>3) 藻場資源評価及び管理手法の確立
現在の藻場の状態を的確に把握するとともに、どのような水準で維持・管理すれば理想的な状態に近づくかを把握するため、我が国沿岸域の藻場資源評価方法を確立する。また、藻場が必要とする環境条件を持続させるため、海洋環境や他動植物との関係を加味した簡便で効果的な管理手法を確立する。</p> |
|--|

「藻場資源調査等推進委託事業」の構成

海生研の担当した「藻場資源の長期変遷調査」の主な目的は、藻場資源の評価・管理手法検討にあたり、その基となる定量的な藻場分布情報を収集・整理し、長期的な変化とその要因についてまとめることです。

「藻場資源の長期変遷調査」の進め方

私たちは「1. 藻場現状把握調査」、「2. 藻場長期変遷調査」、「3. 藻場資源分布のデータベース化」により「藻場資源の長期変遷調査」を進めました。

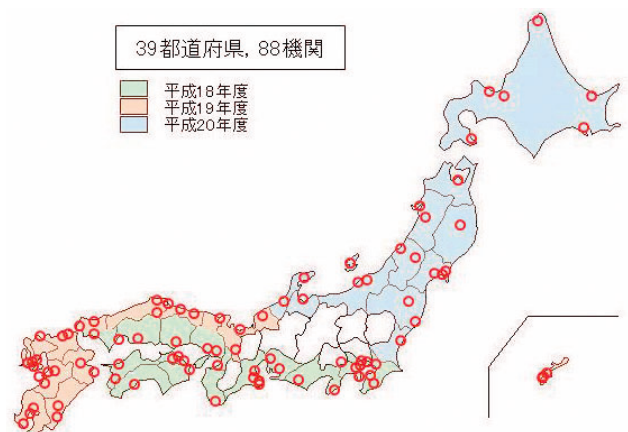


「藻場資源の長期変遷調査」の構成

「1. 藻場現状把握調査」では、現状の藻場分布情報を収集・整理しました。

「2. 藻場長期変遷調査」では、過去の藻場分布情報を収集し、「1.」で得られた現状との比較を行うとともに、変化があった場合にはその要因を整理しました。

収集した藻場分布情報は、今後、藻場の維持・管理の上、重要な情報となるため、「3. 藻場資源分布のデータベース化」では、「1.」と「2.」で収集した全国にわたる藻場分布情報(藻場分布図など)を藻場分布データベースとして地理情報システム(GIS)上に整備しました。



藻場分布情報の収集先

情報収集は国や地方自治体、大学や研究所などの藻場の分布調査に関わっている組織を対象に、全国88機関に協力頂きました。

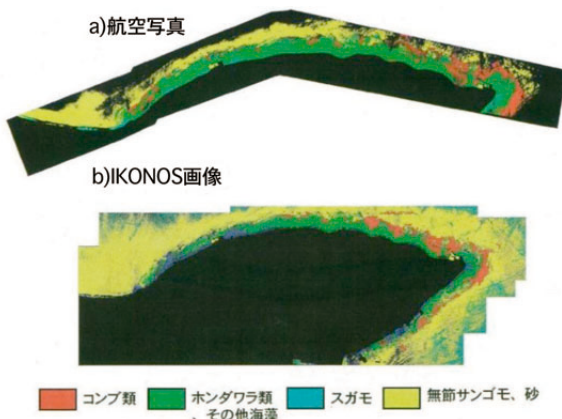
藻場分布情報とは？

収集した藻場分布情報は、藻場分布図、分布面積、現存量（主に湿重量で示される）です。

分布図は、地図上に記載されたものから、航空写真や音響探査システム画像をコンピュータ処理して図化したもの、既に地理情報システム上に入力されているものなど様々な形態のものがあります。また、調査方法も、漁業者等への聞き取り調査、船上目視や潜水目視による調査、音響探査システムや航空・衛星写真による調査など様々です。藻場面積は、分布図が作成されている場合はほぼ算出されています。一方、藻場全体の現存量は、算出に刈り取り作業を伴ない、しかも誤差が大きいと、ほとんど算出されていません。



航空写真と現地調査を併用して書かれた岡山市西大寺周辺の分布図（岡山水試，1978）



航空・衛星写真の画像解析で作図された北海道稚内市ノシャップ岬周辺の分布図（赤池ら，2006）

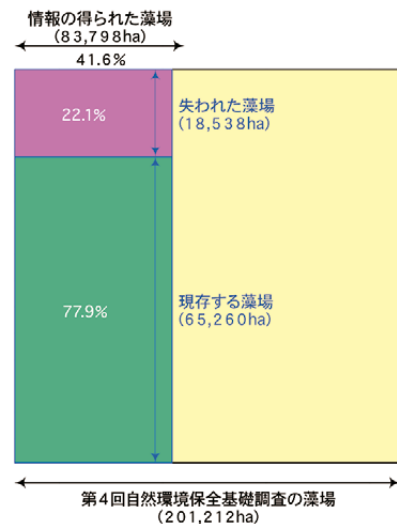
藻場分布の調査実態

全国規模の広域の藻場分布調査としては、環境省（旧環境庁）の自然環境保全基礎調査がよく知られています。この

調査は自然環境保全法（1972）に基づき実施されている調査で、第2回（1978～1979年度）、第4回（1988～1992年度）、第5回（1993～1998年度）、第6回（1999～2004年度）、第7回（2005年度～）と行われていますが、藻場分布図作成や面積の算出は第5回までしか行われていません。その他の調査としては水産庁による「藻場・干潟の現状」（1992年）や海と渚環境美化推進機構による「藻場・干潟環境保全調査」（2000-2002年度）のみでした。最新の「藻場・干潟環境保全調査」は全国調査ですがアンケートによるため、分布情報のない都道府県が多く含まれます。都道府県レベルでの広域の分布調査は、2000年以降に限ると6県のみで、近年、藻場の衰退が顕著になり、実態把握を目的とした取り組みがいくつかの県で進められている状況です。

藻場の面積の変化は？

収集した資料のうち、2000年以降に発表されたもので、環境省の第4回自然環境保全基礎調査として1989～1991年に調査された藻場面積（201,212ha）と比較可能な藻場面積データを集計してみたところ、83,798ha



全国集計による藻場面積の変化

（41.6%）の藻場について近年の情報が得られ、このうち22.1%に当たる18,538haが減少していました。第4回自然環境保全基礎調査の報告書には第2回自然環境保全基礎調査（1978年度）からの13年間に3.2%の藻場が失われていると記載されています。この結果、情報の得られた海域では、この10～20年間にかなりの速度で藻場が衰退していることになります。

次回は

藻場の衰退を海域毎に見た結果とその要因、地理情報システムを用いて整備した藻場分布データベースについて紹介いたします。

（中央研究所 海洋環境グループ 秋本 泰）



もっと光を

海生研の研究業務はある目的を持った委託研究が中心であり、研究的興味で何かやり残したことがあったとしても、事業の目的から多少離れていたり、また、委託の年度が終了したりすると、フォローする機会を逸してしまうことが多々あります。私の場合もいくつかそのような積み残しをそのままにして、現在に至っています。

経済産業省(当時は通商産業省)の委託事業で私は平成元年から約10年間、北海道南西部沿岸をモデルサイトとして選び、どのような海岸構造物がウニ(キタムラサキウニ)とコンブ(ホソメコンブ)が共存するのに好適かを調査する仕事を受け持っていました。ご存じのとおり、北海道の南西部沿岸にはウニはたくさん生息していますが、餌となるコンブが不足した磯焼け海域となっていて、ウニの身入りが少ない状態になっています。このウニとコンブの共存する海域の実現のためには、まずコンブを増やすことが必要でした。そう、この事業は磯焼けの回復を目的とした事業であったとも言えます。

私達は近接する磯焼け域とコンブが繁茂する場所に調査エリアを設け、海域の水温、塩分、光、波浪、海底地形、ウニの数と行動等様々な要因を年間を通してモニタリングし、比較しました。その結果、水温、塩分、そして後で述べます光については両海域で違いはみられませんでした。そして、コンブが繁茂する場所では、複雑な地形と強い波浪によって冬のあいだのウニの食圧が制御されることにより、コンブの芽生えが保護され、その結果コンブ群落が成立しているという結論を導き、さらに構造物に何らかの工夫をすることによりコンブとウニを共存させることができることを示しました。ここまでの事業の成果です。

この仕事では、特に冬の間は日本海特有の時化によって何日も仕事ができない日々が続きました。外は雪の舞う民宿の部屋で、明るい日差しと風を待つ退屈な日々をすごしていました。そこで考えたこと「なぜ、北海道西岸には磯焼けが続くのだろう? 太平洋岸と何がちがうのだろう?」。海藻と藻食動物の関係は微妙なバランスによって維持されており、海藻の生産が動物の食圧に耐えら

れない場合に磯焼けが生じると考えられます。「それではコンブの生産を左右する要因で太平洋側と日本海側で違うのは何だろう?」と考えました。「明るい日差し...、そう、僕と同じ、コンブも太陽が欲しいんだ」。そこで、現場の年間日射量の移り変わりを函館、根室と比較してみました(図)。

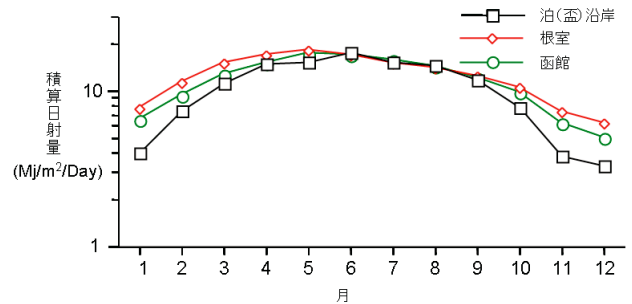


図 泊(盃)沿岸の日積算全天日射量の他地域との比較
泊海岸は平均6~8年の3カ年の平均値、他は昭和49年~平成2年までの17年間の平均値(理科年表平成4年度版より)

その結果、根室が最も高く、次が函館となっていて、泊海域は最も低くなっていました。函館はホソメコンブの親戚であるマコンブが沢山生えていますし、根室は大型のナガコンブの一大産地です。光の量を季節ごとにみてみますと、6月から9月までの夏には3海域ともほぼ同程度でしたが、コンブが芽生え、急激に成長する冬から春にかけては明らかな差がみられました。そう、北海道の日本海側の磯焼けの原因の一つとして日射量不足があるのではないだろうかということです。北海道の磯焼けに関して栄養塩の不足が原因の一つであろうということは古くから言われており、肥料を撒くなどの対策も講じられていますが、コンブの生育に大事な条件である光については情報が少ないような気がします。地元漁師さん達のお話を聞くと、コンブの豊凶は年によってかなりの変動があるとのことでした。私達の調査でも、最終年度にみられたコンブはいつもの年よりも薄っぺらで弱々しく、なぜだろうと考えたものです。残念ながら、この年の光条件は測っていませんでした。

もしかしたら、コンブの豊凶と冬から春の日射量を長年観測してゆけば、何らかの関係がみられるかもしれません。陸上のお米の収量については、日射量との関係で

予測までされているのに、海の中ではあまり議論されていないのが不思議な気がします。

ここでご紹介させていただいたコンプの豊凶と光の関係につきましては私自身もチャンスを見つけて再検討

してみたいと考えていますが、私以外にも興味を引かれた方がこのテーマについてフォローアップしてもらえらば、光栄です。

(中央研究所 海洋環境グループ 道津 光生)

江戸川橋物語

「随分遠くへ移転なさるんですね。」

既にお知らせしておりますように、本年8月より有楽町線の江戸川橋駅に程近い事務所に移転しましたが、事前説明に対しての多くの方の反応は冒頭のようなものでした。実際有楽町線で飯田橋から一駅なので、以前の事務所が所在した神保町からはそう遠くはないのですが、東に江戸川区もあれば、江戸川もあり、その近辺と考えた方が多かったのは無理の無いことです。



江戸川橋周辺図

江戸川橋駅は昭和49年に地下鉄有楽町線が池袋から銀座一丁目まで開通した時に設けられました。それまでは路面電車(都電)が走っていましたが、有楽町線開通の少し前に姿を消しました。

江戸川橋は現存する神田川にかかる橋ですが、神田川の飯田橋から江戸川橋の少し上流までの部分がかつて江戸川と呼ばれていました。

鎌倉時代に^{こうずけ}上野国赤城山の豪族により創建された赤城神社近くに、赤城坂という「新選東京名所図絵」に「...峻悪にして車通ずべからず...」と記された急な坂があります。また江戸川橋から目白方面へ上る目白坂も急な坂ですが、これらの斜面はその昔海岸線がこの辺まであった頃、波による浸食で出来たと言われていました。

江戸時代埋め立てがすすみ、急激な人口増加が起りましたが、満潮時には海水が上って来る川の水や、し

よっぱい井戸水を飲んでいた庶民が多かったため、家康は水道工事を行いました。武蔵野の井の頭池からの水を江戸まで持ってくるように、また満潮時には江戸川橋付近まで海水が上って来るため、石を積み重ねて作った大洗堰(おおあらいぜき)により海水をそこでせき止めました。

また大洗堰は井の頭池からの湧水に、善福寺池からの善福寺川と妙正寺池からの妙正寺川の二流が落合にて合流した流れをせき止め、水道町を經由して水戸屋敷(現在の後樂園)を通って神田、日本橋を中心とした地域に給水するという大きな役割を担っていました。また水道橋の名前の由来はそのときに水を通していた懸け樋(かけい)の橋に由来しているそうです。



大洗堰跡

江戸川橋公園の中に大洗堰に使われていた石を使いその一部を再現した大洗堰跡があります。大洗堰を築き上げる為の石を加工する石切場が、現存する石切橋の近くにあったとされ、江戸川橋付近の関口という町名の由来は大洗堰によるとされています。ちなみに関口にある関口フランスパンは本格的なフランスパンを日本で一番最初に作ったパン屋として知られていますが、いまでもそのフランスパンは人気を博しています。

江戸川橋公園の少し西に関口芭蕉庵がありますが、俳聖と呼ばれる松尾芭蕉が延宝5年(1677年)から延宝8年(1680年)までのあいだ、神田川改修工事に参画し「龍隠庵」と呼ばれる庵に住んだと伝えられており、後に世人は「関口芭蕉庵」と呼んだそうです。



関口芭蕉庵

何故芭蕉が土木工事に参画したのか?と疑問に思っていました。同じく江戸川橋公園内にある「芭蕉の俳

句に詠まれた植物の樹名板(東京都みどりの推進委員文京地区)」に「江戸川橋を起点として神田川沿いに西方約一キロメートルの地域は江戸川橋公園、新江戸川橋公園の間に松尾芭蕉ゆかりの「関口芭蕉庵」を有する風致地区である。俳人松尾芭蕉(1644-1694)は延宝五年(34才)から同八年までの四年間に亘り此処に居住して神田上水の改修工事にたずさわったと言われている。俳聖と土木工事とはまことに妙な取り合わせのように思われるが、彼の前身が伊賀国(三重県)藤堂藩の武士であったことや、藤堂藩(藩祖高虎以来築城土木、水利の技術に長じていた)が当時幕府から神田上水の改修工事を命じられていたことなど考え合わせると、彼が工事監督として、この改修工事に関係したことも納得がいくのである。〜」と記されているのを読むとまさに納得がいききました。

そんなことに思いを馳せつつ東京の町を歩くのも楽しいものです。

(事務局 山内 達雄)

トピックス

実証試験場の復興状況報告(4)

平成19年7月の中越沖地震により実証試験場(実証試)は大きな被害を受けましたが、関係機関のご支援を得て、平成20年度から3カ年かけて復興する計画を作りました。今年度はその2年目に当たります。

実証試には、主な試験用建屋として海生生物飼育試験施設と成長産卵試験施設があります。この中で、前者の修理は平成20年度に完了しましたが、後者は現在応急補修して使用しております。

この成長産卵試験施設は、建設から約20年を経て塩害、経年劣化による老朽化が進んでいたところ、地震によって大きな損傷を受けてしまいました。今回の地震を契機に、本施設に代わりこれからの試験業務に適切に対応できるよう応用生態試験施設の新設を計画し、8月24日に安全祈願祭を実施して、平成22年3月の完成に向けて建設に着手しました。



安全祈願祭



応用生態試験施設の基礎工事

一方、実証試の海水取水設備として、お隣の柏崎刈羽原子力発電所内に、自然海水ポンプ室と2つの温海水ポンプ室(第1,第2)があります。この中で、自然海水ポンプ室は平成19年度に補修しましたが、2つの温海水ポンプ室の補修は平成20年度末の段階で手つかずの状態にありました。

温海水ポンプ室では、発電所の温排水を取水しているわけですが、発電所の復旧工事は7号機,6号機,1号機の順で進んでおります。このような状況から、今年度は発電所1号機の温排水を取水している第1温海水ポンプ室の補修にとりかかり、10月中旬に設備の復旧を行い、温排水の取水が可能となるように準備を進めております。



第1温海水ポンプ室の復旧工事

現在、実証試は職員一丸となって、試験・調査業務および復興事業に専念しております。関係機関の方々には、今後ともご指導、ご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。

(実証試験場 太田 雅隆)

新潟県水産海洋研究所一般公開に行ってきました!

さる平成21年8月29日(土)、新潟県水産海洋研究所の一般公開が、「豊かな海づくりへの挑戦」をテーマに行われました。

海生研でも近年、地域貢献や環境教育、海生研事業のPRの観点から、中央研究所(1回/年;ONJUKUまるとミュージアムにあわせて)や実証試験場(1回/2年)の一般公開などを行っていますが、今後の内容充実のた

め、他機関の一般公開を見学させていただきました。

各種体験・展示コーナーには、海生研でも人気の高い「海藻押し葉ハガキづくり」や「お魚解剖体験」(どちらも1回あたり10名程度の定員制で4回開催)、「タッチ水槽」の他、ウマヅラハギへの「エサやり水槽」、加工課で開発した「なんばんエビ・アカモクうどん、アカモクアイスの試食」、展示パネルと連係した「クイズラリー」等、子供から大人まで、楽しみながら学べる工夫がされていました。また展示には、昨年度に新潟県で開催された「全国豊かな海づくり大会」の展示物も、上手く利用されていました。



海生研でも人気の「お魚解剖体験」の風景

少数精鋭(?)のためか、少々難しい話も、子供達は真剣に聞いていました。

土屋所長にお話を伺うと、例年、夏休み期間中の平日開催では、300名程度の来所者がいらっしゃるようですが、今回は土曜日開催とのことで、500名の来所者を目標に準備を進められたそうです。

今回、見学させていただき、全体的に丁寧な解説が印象に残りました。丁寧な解説によって、少々専門的な内容でも子供達の理解が高まり、大人の方々にもより興味を持っていただけるようです。海生研でも、他機関の内容を参考として、楽しいだけではなく、より充実した印象に残る一般公開にしていきたいと思います。

(実証試験場 応用生態グループ 山田 裕)

夏休み期間中の実証試験場見学

実証試には柏崎市内外から多くの見学者がいらっしゃいます。特に7~8月は夏休み期間ということもあって、小学校や地域の子供会が主催する見学会が多くなりま

す。この夏も出雲崎小学校（7月29日，40名）や大洲児童クラブ（8月6日，35名），日吉児童クラブ（8月7日，35名），剣子供会（8月11日，60名）の皆さんが見学に訪れました。実証試では海藻の話をしたり，施設を見学してもらったり，実際に魚や貝にふれてもらったりしています。



魚や貝に見入る日吉児童クラブの子供たち

子供たちは生き物を見るのが大好きで，水槽のそばからなかなか離れようとせず，見学時間を超過してしまうこともしばしばです。

（実証試験場 応用生態グループ 三浦 正治）

刈羽中学校生の実証試験場職場体験学習

8月11日に，刈羽中学校の2年生，男子生徒1名が職場体験学習のため実証試を訪れました。当日は藻類の観察や培養液交換，測定データ処理，魚類の飼育・観察などを体験してもらいました。



シロギス卵の発生状況を観察する生徒

また同時に子供会の見学もありましたので，見学者対応の業務についても体験してもらいました。実証試の業務については大変興味を持ったようで，体験したことや研究員にインタビューしたことなどを整理し，学校で発表するそうです。当人の感想も含め，是非聞いてみたいものです。

（実証試験場 応用生態グループ 三浦 正治）

人事異動

[中央研究所]

◎平成21年 9月 4日付

・田口 宣行 退職（総務グループ）

研究成果発表

論文発表等

◆Keats D.W. (Western Cape 大), Maneveldt G.W. (Western Cape大), Baba M., Chamberlain Y.M.(Portsmouth 大) and Lewis J.E.(National Taiwan Ocean 大).

・Three species of *Mastophora* (Rhodophyta: Corallinales, Corallinaceae) in the tropical Indo-Pacific Ocean: *M.*

rosea (C. Agardh) Setchell, *M. pacifica* (Heydrich) Foslie, and *M. multistrata* Keats, sp. nov.

Phycologia, 48(5): 404-422 (2009).

ポスター発表等

◆第9回国際藻類会議（2009.8.2～8，国立オリンピック記念青少年センター）

・加藤亜記（琉球大），馬場将輔，須田彰一郎（琉球大）。

A systematic study of crustose coralline alga *Neogoniolithon brassica-florida* in the Ryukyu Islands, Japan.

・佐藤大輔（北海道大），寫田 智（お茶の水大），小亀一弘（北海道大），馬場将輔。

A phylogenetic study of Japanese articulated coralline algae (Rhodophyta).

行事抄録

全て東京で開催

- 7/29 第1回魚介類中の水銀濃度調査検討委員会
- 8/3 事務局江戸川橋移転, 業務開始
- 8/5 新事務局開き
- 8/18 第1回有害化学物質リスク管理推進事業
(魚介類中のダイオキシン濃度調査)検討委員会
- 8/24 第1回核燃料サイクル施設沖合データ解析部会
- 8/24 第1回原子力発電所等周辺データ解析部会
- 8/25 第1回海洋放射能調査結果評価部会
- 8/26 第1回海洋放射能検討委員会

表紙写真について

一見すると全く別の場所に見えますが、どちらも同じ日に、同じ場所から撮影した海の様子です。

干潟は、河川や沿岸の流れによって運ばれてきた土砂が、流れや波の弱い海岸や河口部などに堆積することで形成された地形です。1日に2回、潮の満ち引きによって、満潮時には海面下に没し、干潮時には干上がります。

海生研では、平成18年度から経済産業省原子力安全・保安院から受託した発電所生態系予測手法検討調査の一環として、「干潟のある海域」では、環境アセスメントに当たって、どのように調査・予測すべきか、現在、検討を進めております。この調査成果は、内容が纏まりしだいご紹介したいと思いますが、今回は、この8月まで現地調査を実施した「干潟」についてご紹介いたします。

周防灘に面した福岡県北九州市～大分県北部の海岸線には大小数多くの干潟があります。この内、調査地点とした大分県豊後高田市には、「日本の夕日百選」にも選ばれた真玉干潟を筆頭に、リアス式海岸の岬と岬の間に白野、堅来、羽根、香々地と干潟が点在しています。

干潟には多くの生物が生息しています。表面には付着珪藻などの微小藻類や微生物が存在し、それらを餌とする小型のカニ類やゴカイ類、アサリやマテガイといった二枚貝類が棲んでいます。稚魚や幼魚の生育場でもあり

ます。さらには、カニ類などを餌とするサギやシギ、チドリなども飛来します。多種多様な生物が存在する干潟は、水質の浄化、生物多様性の維持の観点から、近年、特に重要視されています。一方、親水性も干潟の重要な機能の一つです。家族でアサリなどを掘りに干潟に行かれた、「潮干狩り」の思い出がある方もいらっしゃるかと思います。また、海からの風を遮るものがない干潟は、暑い夏の夕涼みにはピッタリです。このように、私たちは太古の昔から、干潟を身近な里海として様々な形で利用し、豊かな恩恵を受けてきました。



夕日涼み(?)に真玉干潟にいらした方々
—美しい夕日を見ることが出来ましたか?—

1940年代半ばには全国に約80,000haあった干潟は、1990年代後半には約50,000haと、約4割が姿を消してしまいました。しかし近年では、干潟の持つ様々な機能が見直され、保護・保全する気運が高まっています。貴重な干潟を次世代に受け継ぐために、私たち海生研で実施してきた調査研究ノウハウが、今後、一助となれば幸いです。

最後に、平成18年度からの現地調査でお世話になった大分県漁業協同組合香々地支店及び真玉支店の皆様をはじめ、調査の実施にご協力いただいた多くの地元の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。大変お世話になりました。

(実証試験場 応用生態グループ 三浦 正治)

海生研ニュースに関するお問い合わせは、
(財)海洋生物環境研究所 事務局までお願いします。
電話 (03) 5225-1161